

レインボー

U R L <https://www.ishikawa-c.ed.jp/~ushouh/yasuragi/index.htm>
 TEL・FAX 0767-22-0345

今年は、昨年にも増して雪の降らない暖冬となりました。「雪すかし」をする苦労はなく、その点では有り難いのですが、スキーやスノボが楽しみという人たちにとっては、少々残念な冬になったのではないのでしょうか。

閑話休題。昨今、テレビのワイドショーなどは、連日新型コロナウイルスの話題で持ちきりです。司会者やコメンテーターが、感染拡大の状況や対応のまずさなどについて力説しています。ただ、最近、いささか食傷気味になってきました。確かに、事の重大さは伝わってくるのですが、現場の担当者でもなく、必ずしも専門家とはいえない司会者とコメンテーターが対策法などについて抽象的に言い合っても、決して現実的な「文殊の知恵」は出てこない気がします。第三者的な理想論ばかりでは、「現場」の方々にはさぞかし嫌な思いになるのではないのでしょうか。困っている、頑張っている当事者にとっては、「それは〇〇が良くなかったからだ」「その〇〇は良くない」「〇〇であるべきだ」と、『そもそも論』的に解説されてもどうしようもありません。

感染被害に苦しむ中国には、各国からたくさんの支援物資が送られています。そんな中で、中国の人たちは、日本からの『中国加油』(中国頑張れ)や『山川異域 風月同天』(別の場所に暮らしていても、風物はつながっている)というメッセージに対して、特に感謝の気持ちを示してくれたそうです。

「やまない雨はない」という言葉があるように、悩みはきっといつか解決するものです。ただ、八方塞がりになって困っているそのときには、「とにかく一緒に頑張ろう」という『心の支援』が一番嬉しく、とても大切なものであるように思います。



今年度の月別相談状況

昨年度に比べ、相談件数が大幅に増えました。特に、スーパーバイザーの田幡先生の「SV相談日」には、多くの皆さんが来室されました。新年度が始まって、新しい学校生活にも慣れたはじめたゴールデンウィーク明けや、長期の休業が終わった夏休み明けに、たくさんの相談がありました。

(2月は20日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
来所相談	4	6	16	18	4	16	12	7	9	6	6	104
訪問相談	0	0	0	0	1	0	0	0	5	1	0	7
電話相談	4	0	5	10	4	13	6	6	6	6	2	62
合計	8	6	21	28	9	29	18	13	20	13	8	173

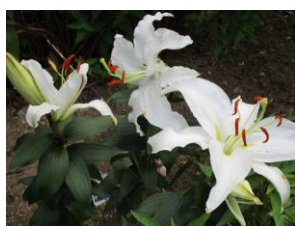
「やすらぎファームでの1年」

1年を通じて、やすらぎファームでは、畑での野菜作りや花壇での花作りの計画・作業をしてきました。そして、ようやく新たな春を迎えようとしています。

玉ねぎ、絹さやえんどう、キュウリ、トマト・ミニトマト、茄子、生姜、さつまいも、ラディッシュ、ホウレン草、小松菜、大根、無花果などの栽培や収穫、またバラやヒマワリ、チューリップ、かすみ草、ラベンダー、ゆりなどの育成・・・を通じて、世話しているはずのこちらが、いつのまにか野菜や花から力をもらっているように感じていたのは、気のせいでしょうか？

もの言わぬ野菜や花ではありますが、お互いに共に育て、育ちながら成長していく一日一日の歩みは、大切な何かを教えてくれるようにも感じます。

子どもたちや保護者の皆さんも、「何かひとつ」から始めてみませんか？



「己を知る」 やすらぎ羽咋教室 室長 木田 肇

「身の丈に合わせて頑張って…」と発言して、墓穴を掘った某大臣がいましたが、「身の丈」の類義語に、「身の程」や「分相応」という言葉があります。これらは、「自分が置かれた状況を正確に把握する、背伸びをしない、許容範囲内の言動を心がける」ことの大切さを教えてくれます。しかし、自分のことを冷静・正確・客観的に判断できるでしょうか？ 誰もが自身を、過大・過小評価したり、こうあるべきだと思い込んでいます。人生には、鏡に映った自分の姿を直視できないこともあるでしょう。しかし、どんな時であっても『己を知る』ことは大切です。時が解決してくれるのをひたすら待つのでなく、行動を起こすことで、閉塞状況を打破するきっかけが生まれるかもしれません。

自分1人ではどうしようもない時は、身の回りの誰かを頼ってください。「やすらぎ羽咋教室」は、困っているあなたが、いつでも気軽に相談できる環境・設備が整っています。

「心に寄り添う」 やすらぎ羽咋教室 スーパーバイザー 田幡 啓子

『家裁の人（敢えて裁ではなく裁を使っています）』という漫画をご存知でしょうか。植物を慈しむ桑田義雄という裁判官が主人公です。司法修習生時代に、「自分も矛盾を抱えた人間であり、矛盾を抱えた人を裁くことはできない」と悩みながらも、指導教官の「矛盾を抱えないボンクラばかりが裁判官になったらどうする？」という言葉に裁判官になることを決意します。苦しんでいる子どもが、桑田判事のような大人に出会う。どんな人と出会うか。それはとてつもなく重要なことだと少年事件に真摯に向き合う桑田判事を見て思います。

子どもは勘が鋭いです。“子どもだからわからないだろう”は間違いです。自分にも悩みもあれば、矛盾もある。経験値は上かもしれないけれど、人としては大人も子どもも対等であることをわかっていたら、出会うことができたなら、少しは子どもの心に寄り添えるかもしれないと思うのです。